

21 部分てんかん症例におけるI-123 Iomazenil SPECTによるベンゾジアゼピン受容体画像 松村 要、中島弘道、北野外紀雄、竹田 寛、中川 毅 (三重大放)

部分てんかん症例 12 例を対象にI-123 iomazenil (IMZ) SPECTを行い、その有用性を検討した。全例発作間歇期に検査した。IMZ投与 5 分後より早期像、3 時間後より後期像を撮像した。視覚的判定により、全例に種々の程度の集積低下部位としての異常所見を認めた。異常所見の程度は 7 例にて早期像と後期像は同等であり、5 例にて後期像でより明らかであった。I-123 IMP による脳血流像と比較して、6 例にてIMZでの異常所見がより明らかであった。5 例にて臨床的に予測された焦点部位とIMZでの異常部位は部分一致し、臨床的に焦点部位が不明な 7 例のうち 5 例にて焦点部位を示唆する所見が得られた。本剤は部分てんかんの焦点部位診断に有用であると思われる。

22 部分てんかん症例におけるI-123-iomazenilの早期像と後期像の比較検討—washout亢進部位の検出

久慈一英、隅屋 寿、市川聡裕、絹谷啓子、利波紀久（金沢大核）、辻 志郎（同保健学科）、中村充彦、地引逸亀（同精神）

部分てんかん24症例の発作間歇期I-123-iomazenil (IMZ) SPECT静注15分後の早期像と3時間後の後期像との分布変化を詳細に検討し、定量的評価も試みた。ガンマカメラは、東芝社製高分解能三検出器型を用いた。約70%の症例で正常皮質よりwashoutの亢進した部位が視覚的に検出された。今回の検討例には脳血流像やIMZ後期像のみでは異常が検出できない例もあった。washoutの亢進部位は、早期像でIMZが高集積域を示す部位がむしろ多かった。この方法により発作焦点の検出能の改善が認められた。